

パートナーシップ情報

Partnership
Information

発行日 2008年4月
発行 企業・NPOパートナーシップ委員会（事務局：高知県ボランティア・NPOセンター）
〒780-8567 高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ4F
社会福祉法人高知県社会福祉協議会／高知県ボランティア・NPOセンター内
TEL 088-850-9100 FAX 088-844-3852 Eメール kvnc@pippikochi.or.jp

◆ 企業・NPOパートナーシップ委員会では、企業の社会貢献活動の支援や企業とNPOのパートナーシップをすすめるための議論を行い、さまざまな事業を実施しています。 ◆

企業市民セミナーの開催報告



企業・NPOパートナーシップ委員会は、2007年9月6日(木)に高知銀行、2008年2月18日(月)に四国銀行において、「企業市民セミナー」を開催しました。

2007年度第1回のセミナーは「高知を元気にする新しい事業おこし」をテーマに、企業のビジネスが地域の活性化や問題解決にどのようにつながるかをともに考え、企業が地域の一員としてどのように社会貢献活動に関わっていくのかを探りました。

また通算20回目の開催となる2007年度第2回のセミナーは「NPOが新たなビジネス・

パートナーになる！」をテーマに、社会的ビジネス、コミュニティビジネスを展開しているNPOなどから、オリジナル開発製(商)品のPRも交えたプレゼンテーションをいただき、企業とNPOの事業提携や販路拡大につなげる“ミニミニ商談市”として開催しました。

以下、セミナーで発表いただいたNPOや企業の活動を紙面で紹介します。

>>>> ○第19回企業市民セミナー「高知を元気にする新しい事業おこし」 <<<<

2007年9月6日(木) 13:30~16:30 (株)高知銀行 片町研修会館

「経済と環境の両立を目指して」

小川雅弘さん 特定非営利活動法人高知県環境自律フォーラム 理事長

優れた自然環境と共生する高知において、今後人間が生きていくために「経済と環境の両立」が必要であり、また環境面で日本一、世界一になれば魅力的な県になるのではとの思いから、環境保全や地産地消の活動に取り組んでいるNPO法人高知県環境自律フォーラム。高知県人口は、2035年に60万人まで減少するといわれていますが、人がいなければ経済は活性化しません。そこで「自然環境との共生」という魅力を発信することで、団塊世代等の人たちの高知への移住を促進するため、「移住ビジネス」について学習を行っています。また、廃校・休校舎を利活用した「土佐アート・カウンセル構想」や、10月3日を「土佐(とさ)の日」に制定して、高知の魅力を発信する取組みなども動き始めました。企業とNPOが連携することで高知を元気にしていきたいとのこと。



「土佐の日」制定記念シンポジウムの様子

「企業と福祉の新たな関係」

竹村利道さん 特定非営利活動法人ワークスみらい高知 理事長

障がい者の就労支援として、「働く場をつくり、最低賃金を保障したい」というミッションのもと、お弁当やケーキの製造・販売などの事業を展開しているNPO法人ワークスみらい高知。一般的に想像される企業と福祉の関係をチャリティな結びつきによる“Win-Loseな関係”と表現するならば、同法人が目指すのはお互いにとってのビジネスチャンスを生み出す“Win-Winな関係”。ビジネスを主体としたパートナーシップから、大もうけではないながらも確実な利潤が生まれており、その結果不採算事業の再生や、障がい者が消費活動をし始めるといった成果が出ています。業績面においてもメリットのある共存の関係によって、関わっている人みんなが元気になっているそうです。今後も企業と共存して、事業を組み立てることによって、ミッションを実現していきたいとのこと。



どら焼きをつくっている様子

〇第20回企業市民セミナー「NPOが新たなビジネス・パートナーになる!(ミニミニ商談市)」

2008年2月18日(月) 13:30~16:30 (株)四国銀行 本店西別館5F研修室

スタートした企業とNPOとのパートナーシップ

第19回セミナーの後、NPO法人ワークスみらい高知と株式会社サニーマートの間で、実際の事業提携に向けた取り組みが始まりました。それを受けて、第20回セミナーでは、企業とNPOとの具体的な連携を考えていく“ミニミニ商談市”スタイルでの開催が企画されました。

株式会社サニーマートの黒岩強志さん(一般商品グループ・うまみやデイリー・バイヤー)は企業とNPOとの提携のポイントについて、次のように語ります。

「相次ぐ産地や製造日などの偽装問題により、消費者は食品に対して非常に敏感になっています。NPOでも、地産地消や無添加など、こだわりをもって熱心に商品づくりに取り組まれていることと思いますが、現在の消費者ニーズにマッチさせていくには、まず原材料表示や温度管理の問題、消費期限の設定といった基本的な部分をしっかり行うことが必要です。そのうえで、他の一般メーカーや企業には出せない魅力ある商品を追及し、消費者に喜んでもらえる価値のあるものをつくっていくことで、企業とNPOとの継続的な提携の道が拓けていくと思います。」

「こだわりの商品を生産者とともに」

畦地履正さん 株式会社四万十ドラマ 代表取締役社長

株式会社四万十ドラマは地元の住民140名ほどが主な株主になっている“じゅうみん株式会社”。四万十地域の豊かな自然の恵みを活かした独自商品を開発し、地域の活性化に取組むなど、住民活動に近い視点で事業を展開、昨年7月からは道の駅「四万十とおわ」の運営も行っています。主力商品の「しまんと緑茶」などに見られるように、“生産者の顔がわかる”をコンセプトに、100%四万十茶葉使用、しかも一番茶しか使わないなど、地元ならではのこだわりの商品づくりで、販売についても生産者の方々と話し合いながら行っているそうです。今後は、同社が蓄積してきたノウハウを伝える体験プログラムの展開を考えているほか、人材育成にも力を入れて、四万十川から新たな連携の芽を育てていきたいとのこと。



四万十茶葉100%の焙茶・緑茶・紅茶

「規格外のシュガートマトを活用して」

安岡千春さん 特定非営利活動法人日高わのわ会 事務局長

年齢や障がいに関係なく社会参加ができるノーマライゼーションの実現を目指し、地域の困りごとをビジネス的手法で解決するコミュニティ産業に取り組んでいるNPO法人日高わのわ会。特産品のシュガートマトの規格外のものを活用した商品の開発、販売(トマトソース・トマトジャム他)を行っており、地産地消や雇用の創出といった成果につながっています。きっかけは、とある農家から規格外のトマトをもらったことで、当初は同法人が運営している「わのわ喫茶」でトマトパスタとして提供するのみでしたが、パック詰めやトマトの保存方法などについて、役場や水産会社、JAなど様々な人からの助言・協力を得て、販売を行えるように、また多量のトマトを扱えるようになりました。今後、規格外トマトすべてを商品化して販売できるよう、新商品の開発や販路の拡大を図っていききたいとのこと。



いろいろな料理に使えるソース・ジャム

障がい児・者が地域で生活を送っていくうえで起こる困難や障がいを克服し、経済的に自立できる手助けが少しでもできれば、との思いから、そうした方々がまちの中で働ける場、社会活動ができる場として、菓子工房「マギステル・エスト・レナー」、福祉作業所「ストーデンス・レナー」の運営を行っているNPO法人まあるい心ちゃれんじどの応援団。主力商品は無添加で種類豊富なシフォンケーキ。店舗販売のほか、市内の小・中学校での販売実習や量販店でのスポット販売、木曜日や各種イベントへの出店など、ボランティアの協力を得ながら、様々な方法で販売活動を展開しています。今後、事業を拡充していくために、自信を持ってお客様に提供できる商品づくりをしながら、改良を重ね、一般の流通ルートに乗せられるようにしていきたいとのこと。



いろいろなお菓子を製造・販売しています

参加者の声

●第19回セミナー

・企業と福祉の関係を見直すことができた。 ・頑張る企業とNPO、それを後押しする市民が増えればいいと思う。

●第20回セミナー

・商品だけでなく、なぜ活動しているのか、何の目的かということが聞けた。 ・それぞれ特色ある取組みでおもしろかった。
・「こことビジネス・パートナーになりたい!」という企業側の意思表示が見てみたかった。

企業とNPOの“共存共栄”が“高知の元気”へ

今年度2回のセミナーで発表いただいた事例から、それぞれの取組みを通して、大もうけではなくとも確実な利潤が生まれていることや、不採算事業や衰退しつつある地域産品の再生が行われていること、またそれらが雇用の創出につながっているといった、着実な成果が現れていることが分かりました。そして、そうしたことがコミュニケーションや人づくりの場となり、高知という地域の活性化につながっていくという、ひとつの道筋が見えてきました。

セミナーのまとめとして、高知大学の上田健作教授からも、「社会貢献の本質とは、社会というタペストリー（織物）をつくっていくときに、自らがどのヨコ糸になって、どの糸と結びついてタテ糸をつむぐのか、または互いに支えあっていくのかを考えることだと思います。タテ糸が『高知を元気にしたい』という熱き思いであるということ、そしてヨコ糸として、NPOやコミュニティビジネスを展開している企業など、多様な団体が固有の資源を活かして活動しているということが、これまでのセミナーを通して見えてきました。こうした高知中にあるいろいろなヨコ糸を、高知の活性化というタテ糸に対して、どのように織り込んでいくかを考えていくのが、これからの課題なのではないでしょうか。」とのコメントをいただきました。

今後、企業とNPOがお互いに事業や活動を継続しながら、高知という地域が元気になっていく、そのような成果を生み出せる共存共栄の関係をつくりあげていくために、モノについてはもちろんのこと、サービスや仕組みといったことについても、連携のあり方を模索していくことが求められていると思います。ますますパートナーシップのリーションをつなげていく・拡げていく場として、セミナーがさらに発展していく可能性が拓けてきました。

企業・NPO資源循環システムの運用報告

企業の持つ物品等の資源をNPOの活動に役立てるための仲介を行う、「企業・NPO資源循環システム」の運用を行っています。2007年度は、9社から提供いただいた物品394点を65団体にお渡ししました。

「備品の入れ替えで、まだ使える机やイス、OA機器などが不要になった」「店内の催事場を地域の団体のために役立てたい」など、企業の資源を地域社会のために有効に活かしたいときは、是非ともご連絡ください。



物品受渡し前のセレモニーの様子

「企業・NPO資源循環システム」とは

企業がもつ資源をNPOに橋渡しすることで、企業の社会貢献活動とNPOの運営を支援していく仕組みです。仲介するのは、「物品」、「場所」、「資金」、「人材」です。



〔運用実績〕

提供企業	引渡し年月	提供資源	提供先 N P O
(株)四国銀行	2007年 4月、6月	長机、パイプイス、応接セット、ソファ、洋服架け、木製棚、スチール本棚 事務用イス、棚、コートハンガー 計57点	森の応援団さんりん倶楽部、ART NPO TACO、まあるい心ちゃれんじどの応援団、高知だるくの会、デイホームゆったり、アテラーノ旭、ゆうハート安芸の会、訪問理美容ネットワークゆうゆう、たびびと 計9団体
高知スタンダード石油(株)	2007年 6月、7月	カラーレーザープリンター、テーブル、イス、キャビネット、ロッカー、冷蔵庫、タンス、棚、テーブルセット、タンス、カウンター、マガジンラック、仕切り、時計 計21点	めざめ、訪問理美容ネットワークゆうゆう、黒潮蘇生交流会、幡多ふるさとの会、ゆら・ら、土といのち、高知県有機農業研究会 計7団体
高知県経営者協会	2007年6月	OA机、イス、クーラーボックス、ボックス、ラジカセ、書類棚、FAX 付き電話、パーテーション、デスクマット 計17点	とかの元気村、共同作業所森のいえ、要約筆記高知やまもも、チャイルドファーム倶楽部、土といのち、宇佐在宅介護センター、めざめ 計7団体
(株)NTTドコモ 四国高知支店	2007年 6月、10月	機密廃棄ボックス、OA机、イス、キャビネット、棚、パソコンラック、カウンター、仕切り 計88点	たびびと、土といのち、脳外傷友の会高知青い空、地域サポートの会さわやか高知、高知県肢体障害者協会、由菜の里、れいほくの里どんぐり、Open Heart、いの町グリーンツーリズム研究会、安芸市社会福祉協議会、本山町社会福祉協議会、佐川町社会福祉協議会 計12団体
(財)高知県 ぶくし交流財団	2007年6月	ロッカー、灰皿、ゴミ箱 計6点	ゆうハート安芸の会、訪問理美容ネットワークゆうゆう 計2団体
(福)高知県 社会福祉協議会	2007年6月	パソコンラック 計1点	訪問理美容ネットワークゆうゆう
(株)サニーマート	2007年9月	石油ストーブ 計2点	宇佐在宅介護センター、めざめ 計2団体
(株)サニー不動産	2007年11月	折りたたみ机、イス 計69点	土といのち、れいほく活性化機構、訪問理美容ネットワークゆうゆう、わくわくライフステージ、Open Heart、うぐるすサクラの会 計6団体
イオンモール(株)	2008年1月	シュレッダー、テレビデオ、棚、ソファ、パイプイス、机、ラック、事務用イス、テーブル、キャビネット、ホワイトボード、時計、コートハンガー、靴箱、のぼり立て、CDラジカセ 計133点	一宮消費者グループ、高知おもちゃ図書館はとぼっぱ、こうち被害者支援センター、フリースペース・びーねっと、高知NPO、YASU海の駅クラブ、かがみスポーツクラブ、みどりの手みどり作業所、デイサービスあっぱれ、高知いのちの電話協会、デイサービスまる、れいほくの里どんぐり、たびびと、アテラーノ旭、訪問理美容ネットワークゆうゆう、宇佐在宅介護センター、脳外傷友の会高知青い空、土といのち、ART NPO TACO 計19団体
総計 9社		394点	65団体

※その他企業からの支援・協力

- (株)太陽 提供物品の保管用倉庫の無償貸与【通年】
- (株)マーク 提供物品の保管協力【2007年10月分】

企業・NPOパートナーシップ委員会参加企業・団体(2008年3月現在)

イオン高知ショッピングセンター、一宮生コンクリート(株)、(株)NTTドコモ四国高知支店、(株)高知銀行、(株)高知スタンダード石油、(株)サニーマート、(株)四国銀行、(株)相愛、(株)土佐ガス、高知県経営者協会、特定非営利活動法人高知NPO、特定非営利活動法人ごめん・なはり線を支援する会、特定非営利活動法人自立サポートセンターあきらめないで、高知県ボランティア・NPOセンター、特定非営利活動法人NPO高知市民会議 [事務局] 高知県ボランティア・NPOセンター、高知市市民活動サポートセンター